

令和6年度 第2回鹿島小学校運営協議会

会場：鹿島小イングリッシュルーム

令和6年(2024)年9月5日(木)

1 会長あいさつ

・大雨・暑さ・地震などに対する対応で判断を求められるものがあります。これだけ様々なことが変化してくると、今まで通りにはいきません。だからこそ、子供たちに地域の方々の目が届くと、安心であり、地域の方々の存在は大きいです。お互いに何となく知っているというのが大切です。情報交換しながら子供たちを守っていきたいです。

2 校長あいさつ

・始業式の日(8月30日)は台風だったが、学校を休校にするかどうかは校長判断であります。多摩市は休校だったが、八王子ということで通常通り行いました。始業式の最中も警報が鳴っていたが、子供たちの登下校には大きな影響はなかった。遠方の家庭などは、保護者の判断で休んだ児童もいました。(欠席扱いにはしていません。)

・登校しぶりが多く、まったく来ていない児童もいます。先生方も丁寧にみているが、よくなったり停滞したりしています。2学期に入ってから同じような状況が続いています。

3 1学期のふり返り(校長)

・子供たちは元気にやっています。運動会や日光移動教室を実施しました。鹿島小と松が谷小は同じような規模で、由木東小は大きな規模のためままれてきています。そのような児童が集まる中学校に向けて生きる力、一人でやっていく力が鹿島小学校は弱いので、鍛えていかないとはいけません。由木東小では難しい児童は鹿島小学校に来てうまくやっていける児童もいます。それぞれの学校の良さがあります。鹿島小学校の特色は、単学級のため人間関係が固定されます。2クラスになることはないので、なかよし班活動に力を入れています。2学期は収穫祭があり、今年度は6班編成です。今年度より、収穫祭を学校公開にして参観していただけるようにしました。子供たちの縦のつながりはとても強く、他の学年の児童の名前も覚えています。

4 2学期の教育活動(校長)

・11月には作品展があります。学校のプールを使わなくなり、京王堀之内にあるアクラブへバスで行き、水泳指導を行っています。CO₂削減のため蛍光灯はLED、水道は自動水洗になりました。プールの更衣室を利用して図工の作品を保管してあります。

・明日から八ヶ岳移動教室ですが、運転手不足のためにバスの料金が高騰しています。費用の半分以上がバスの交通費という内訳になっています。他校は清水に行くところもあり、南海トラフ地震も心配です。日光移動教室も4万円くらいかかっているの、来年度はもっと値上がりすると考えられます。給食費は無償化になり負担は減ったが、だからよいという話でもありません。

・昨年度はスズメバチが多く発生し、学校に来ていたが、今年度はあまり来ていません。

・(委員) 隣の町田市は安くなっています。1万円くらい違って、それぞれの市区町村の補助金額の違いだと考えられます。

・(副校長) バス不足は深刻で、5年生の補助費がなくなり、社会科見学に行けなくなっています。今年度は昨年度予定していたバスがとれなくなり、予定を組み直したが、行けるか心配です。

- ・(校長) 5年生の社会科見学に行けなくなったので、移動教室の中で工場見学を組み込んでいます。

5 学校サポートチーム委員会について (生活指導主幹)

- ・毎週火曜日のいじめ対策委員会で、全学級の状況を確認しながら行っています。今のところ、重大事案はなく、気になる児童、心配な児童などは、その都度教育委員会に報告・相談しながら行っています。

6 追加 (校長)

- ・今年度は5年ぶりに納涼祭が復活し、中学生や高校生もいっぱい来ていて、地域のつながりがあって良いと思います。松が谷小学校は今年度開催しなかったが、来年度は再度行いたいと考えているらしいです。
- ・50周年ということで各所のイベントに冠を付けて実施していただく予定になっています。

7 学校評価について (校長)

- ・学校が力を入れている取り組み (なかよし班について) 知っているという項目については、100%の肯定的意見をもらっています。
- ・小中連携については、松が谷とも連携して行っています。
- ・教員間では、児童がいろいろなことを自分でやってほしいと思っています。捉え方によっては、放っておかれたように感じてしまうので、そのジレンマが難しいです。校長もその学年に入って取り組んでいます、教育として難しいところです。
- ・けんかをして、嫌な思いをただけでいじめとして捉えなくてはなりません。子供によって感じ方が違うので、教員としては丁寧に扱っているつもりでも、人間なので落としてしまうことがある可能性があります。そこで、保護者と連携していく必要があります。
- ・個人が特定できるものについては、直接校長から連絡をしています。また、教員に指導したり、学級に入っで指導したりしています。何かあるときには、直接連絡をもらえるとありがたいです。
- ・読書について、どうしようかと考えています。昔は家で読書するか、外で遊ぶかでありました。学校では読書活動を行っているが、今家庭で読書をする機会はとても減っている現状があり、読書の定着は難しいです。
- ・小中連携について、4・5年生はよくわかっていないと思います。

あいさつについて (委員)

- ・子供たちからあいさつがないときには、自分からするようにしています。あいさつをしないのには、どのような理由があるのかなと考えています。返してもらえなかったとしても続けていますが、ほとんどの児童はあいさつしてくれています。疲れてあいさつできない場合もあると思います。
- ・(校長) あいさつは癖にならないといけません。まず、教員からあいさつすることを大切にしています。これは家庭でも一緒です。あいさつをすることは習慣付けなので、家庭でも協力してほしいです。子供によっては言葉を発声させることが難しい児童もいるので、反応するだけでも良いと思っています。
- ・(副校長) 青少対のあいさつ運動や児童会のあいさつ運動の取組があり、児童会のあいさつへ応える児童が少なく感じています。

学校評価アンケートについて (中学校長)

- ・学校経営計画を保護者・地域・児童に聞いても分からないのではないかな。違う聞き方をした方が良く、トリプルAに限ってもよいのではないだろうか。

- ・読書について、保護者が50%、児童が70%と答えていますが、親子の会話がないように伺えます。親子で話すきっかけにしたいと思います。
- ・保護者の記述に授業時間が短いことが多々あるとあるが、実質は違うと思うので、釈明を書いた方が良いのではないだろうか。
- ・小中一貫教育について、保護者は部活動体験に限られた認識になっているのではないか。連携の日であることを知らせてほしいです。
- ・算数の学習について、感謝や誉め言葉をいただいています。授業の手法をもっと伝えたいと思います。
- ・(委員) 学校経営について、1学期の保護者会で校長から説明があり、理解している保護者が多いです。
- ・(校長) ホームページに載せているのは分かりやすいように図式の概要版です。学校教育目標が飾りになっているので、それも連動するようにしています。学校経営計画は分かりづらく、学校だよりはあまり読みたいと思わないものだと思っているので工夫しています。
- ・本については迷っています。大切だと思っているが、どうやって読ませれば良いかと思っています。私自身は本を読まないで、視覚的情報から得たり、話している中で考えを固めたりしています。本を読むことが苦痛である児童の気持ちはわかります。
- ・(委員) 俳句・短歌・詩などもあるし、物語もあります。
- ・(会長) 本の定義は何か。
- ・(校長) 皆様と話すことが面白いです。感覚の違いがあることが面白いです。私は感性で動いています。いろいろな人がいるからよいのだと思います。
- ・(委員) 自分の子は本を読むことよりも、YouTubeを見ている方が多いと思います。
- ・(校長) 学校では本しかありませんので、読まなければいけないという環境にいます。読み聞かせはよく聞いているので、家庭での読み聞かせも大切です。
- ・(委員) 学童でも学習時間にマンガ読んでいる児童が多いです。
- ・(校長) マンガの世界は複雑ですごいです。
- ・(委員) マンガの影響力はすごいです。
- ・(会長) 大人も必死に読んでいるのだから、子供に影響がないわけがありません。
- ・(中学校長) 昔はマンガが好きな子は本好きになっていたが、今は違ってきています。ジャンプはフリガナがふってあります。
- ・(校長) マンガから文字を覚えてくれればよいと思うところもあり、ゲームなどもやってみないと良さはわかりません。
- ・(副校長) 読書から想像できる力は大切にしたいです。
- ・(会長) 今やるかは別として、こういうものがあるということを提示することは大切です。

8 学童より

- ・わくわくランドはハチビバが参加するので、学童は参加しません。
- ・夏休み中は、由木東小学校の児童も登録に来て、70人いました。

9 誰でも食堂について

- ・以前はこども食堂だったが、今は大人も子供も活用できるようになっています。

10 今後の予定確認(副校長)